

第7回議会報告会 質疑・応答 抜粋（要点筆記）

平成27年11月 7日
関川小学校

男・女	質疑・応答内容	回答者
男	安非法制の陳情が不採択となった。日本が戦争に巻き込まれる事態となるが、不採択とした議員はどのように責任をとれるか。その考えを問う。	
	安非法制の所管委員会である総務委員会で協議の上、不採択としたものである。 総務委員会で審議したときは、この安非法制は国会においてすでに通過していたため、当委員会で不採択とした。個人の安非法制に対する考えは、私からは回答できない。	篠永 石津
男	給食センターの建てかえが計画されているが、食育や地元産業の振興のためにも、全て自校式給食とすべきではないか。	
	現在、川之江地区は自校式給食となっているが、自校式給食は安全に対する法律の改正により広い敷地を要する等により無理があるため、全校自校方式とすることはできない。 川之江の自校式給食はしばらく継続とし、新しい給食センターは幼稚園の給食を対象とし、川之江学校給食の新しい給食センターへの移行時期は、現在は白紙であり、2次計画以降で検討する。	谷内
男	土居町の給食センターも、三島地区に計画している新施設と合併するとの話も聞く。土居町給食センターは新しく改正された法に適合していると理解しているが、どうか。（谷内：適合している。） 土居町給食センターは築14年しかたっていない。土居町給食センターはそのまま使用し、三島給食センターのみを建設すべきではないか。土居町は食材の46%を地元農家で生産しており、農家所得にも寄与している。また災害時には自校方式によって救われた事例もある。これらの議会の取り組みについて問う。	
	三島給食センターは合併以前の建物であり、傷みがひどく、早急な建てかえが急がれる。土居町給食センターは法律にも適合している施設であり、継続して使用していくが、三島給食センターへの合併は、将来を見つめたうえで考えている。 食材の地産地消は、すべての給食センターにおいて取り組んでいく。 川之江地区で将来、センター方式としたいとした件については、各関係者とも協議をして理解を得ている。 給食センターは現在計画の段階であるので、自校かセンターかの給食センターの方式、災害時の対応等について、議会も行政とも協議しながら計画を進めていく。	篠永
男	災害が起きると学校が避難場所となる。そのために土居町給食センターを存続させ、また自校方式を進め災害に強い町づくりに取り組んでほしい（要望）	
男	有害鳥獣対策の現状について問う。	

男・女	質疑・応答内容	回答者
	ハンターの減少により有害鳥獣が増加の傾向にある。その解消にはこれら鳥獣の個体数を減少しなければならないため、ハンターに協力をお願いしなければならない。農作物への被害についてはアミヤトタン、電牧等で囲う方法がある。これらについて市から補助金が出ている。いろいろな補助制度があるので、市の農業振興課のほうに相談をしてください。	後藤
男	河川に不法投棄が多くあり困っている。今回「美しいまちづくり条例」ができたと聞くがその条例で対応ができないか。	
	今回制定いたしました「美しいまちづくり条例」は、タバコのポイ捨てや犬の糞の防止等、軽微ものが対象となっており、ただいま質問のありました粗大ゴミなどは対象になっていない。 不法投棄等については今後検討していきたい。 河川、港の不法投棄の対策は県の管轄となっているので、県とも連携を取りながら対処に努めていく。	石津 原田
男	三島に防災センターができたが、川の江・土居地区に防災センターを作る計画はないか。	
	川の江地区からもそのような話があった。なかなか難しいとは思いますが、要望があったことはお伝えする。	篠永
男	有害鳥獣により就農意欲がなくなってしまう。ワナ猟の免許を取得してその対策に臨もうとしているが、手続き等のハードルが非常に高い。議員はこれをどのように考えているか。	
	これまでも多くに議員が有害鳥獣の問題について質問をしているが、なかなか問題解決には至っていない。今後、国県とも協議しながら解決策を見つけていきたい。 高いハードルについて、下げるよう県に要望する。	曾我部 原田
男	飛鷹議員と石津議員は重要な2つのポストに就かれているが、議会活動に支障はないか。	
	委員会には常任委員会が4つと、特別委員会が3つあり、全議員が両方の委員会に入っている。それぞれの委員会に委員長がいるが、委員長は2つの委員会の委員長はしないとされており、それぞれの委員会活動に支障をきたすことはない。	石津
男	猟師の狩猟は趣味でやっている。農家の人が鳥獣被害を受けると市に連絡する。そうすると市は猟友会に言ってくる。しかし猟友会が駆除しても、それに対する報酬が出なくなってきた。駆除に対する価値を認め報酬を多く出してほしい。	
	有害鳥獣の問題は先にも申し上げたとおりです。回答はそちらのほうへいたします。	曾我部
男	土居庁舎から農林水産課が移転してさらに空き部屋がふえた。活力も衰退しているので、土居庁舎を活用して活気を取り戻してほしい。	

男・女	質疑・応答内容	回答者
	<p>農業振興課が移転し管理者がいないことから土居庁舎で勤めている全ての職員は住民サービスの意識低下しているのではないかとの意見だったと思うがよろしいか。 職員がそれに伴って意識低下してはいけないので伝えておきます。</p>	篠永
男	<p>耕作放棄地がふえてきている。若者たちがボランティアで草刈りをしているが、いつまでも続けることは難しい。何か対策をしてほしい。</p>	
	<p>この問題は全市にまたがる問題である。このたび行う津根工業団地造成も耕作放棄地を利用している。不在地主の農地は農業委員会が調査して地主に通知をしている。</p>	原田
男	<p>議会報告会を始めた、経緯・意義・目的及び班編成のあり方について問う。2会場で開催と聞くが、報告内容に違いがないのか。</p>	
	<p>市議会の存在感を理解してもらいたい。また市議会はどんな仕事をしているのか市民に同じレベルで見てほしい思いから始めた。 議員は市民の代弁者であるので、市民の意見に意義を感じている。 班編成は議会だより委員会の方で決めている。 報告内容は同じであるが、報告の仕方には若干違いもあるかも知れない。ただし、結果の出ている件についての違いはない。</p>	篠永
男	<p>過疎化に悩んでいる。その対策をお願いしたい。 有害鳥獣対策に追い込みのおりを設置してほしい。狩猟免許税として6,000円が必要、死活問題として捕獲をしているのだから、税を下げるよう県に働きかけてもらいたい。</p>	
	<p>ご意見を受け取りました。これまでもこれらについて取り組んでおりますが、今後もしっかりと取り組んでまいります。</p>	曾我部